

愛知県立時習館高等学校

海外研修事業（Jishukan International Program）における実施方法の改善と今後の活用

1 経緯

本校で実施している標記の海外研修事業における国内研修プログラムでは、他の事業を含む SSH 事業を通して育成した参加者の英語スピーキング能力を測定し、また海外研修参加者の選考材料とするため、英語スピーキングテストを実施している。

開始当初は、面接室を最大4部屋用意し、公平性の担保のため、各部屋に英語科教員を2名ずつ（計8名）配置する形で、対面でのスピーキングテストを実施していた。

しかしながら、授業時間外に8名の英語科教員（更には控室の監督者も必要である）を確保することは決して容易ではなく、またこのように多人数の教員が携わる中で、かつ一回限りのやりとりの中で、均一の基準にて採点を行うことにも苦勞を要した。

2 改善の流れ

改善には下記の2段階で取り組んだ。

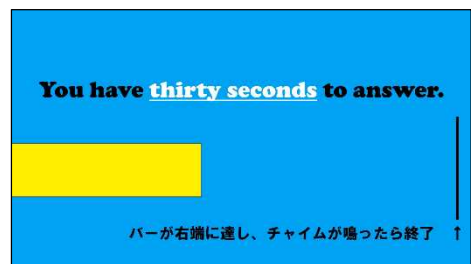
(1) ビデオカメラの活用

面接室1つにつき、英語科教員1名が担当し、口頭にて質問を行った。その回答の様子をビデオカメラで録画し、採点は撮影した動画を見ながら、SSH 担当分掌（当初は SG 部、後に探究推進部に改称）内の英語科教員で行った。

→ 人数は減ったものの、英語科教員を複数名確保しなければならない状況は変わらず、また教員による質問文の発話において、発音や速度の面で公平性を欠くことが課題として残った。また、本校所有のビデオカメラの台数に限りがあり、面接室を多数設けることができず、複数日の実施を余儀なくされた。

(2) タブレット端末の活用

教員1名につき1台のタブレット端末が配備され、内蔵カメラによる動画の撮影と専用ソフトによる編集が容易にできるようになった。これを活用し、本校勤務のALTに協力を仰ぎ、質問文を読み上げる様子を撮影し、Microsoft PowerPointにて作成したタイマー動画（右のスクリーンショットを参照）と組み合わせて、6分程度の動画を作成した。面接室を担当する教員は、生徒の入室に合わせて動画の再生を促すだけでよく、英語科以外の教員も担当することができるようになった。また、ビデオカメラの不足については、タブレット端末での撮影にて対応することができるようになった。



3 今後の活用について

この過程で開発した手法を活用し、今後は英語によるアウトプット能力、とりわけ本校生徒が不得手とする質問への回答能力の向上のため、状況に応じて相手の発話にクイックレスポンスで回答するトレーニングを行うための動画教材を作成したい。作成した教材は Microsoft Teams での共有を通じて、生徒がオンデマンドで利用できるようにすることで、本校 SSH が目指す「国際性の育成」に資する英語力の向上に努めたい。